

コロナ禍における小中連携の在り方

～タブレット端末を活用して～

印旛支部

四街道市立吉岡小学校

戸田 祐希

四街道市立旭小学校

金谷 奈津子

四街道市立山梨小学校

伊東 秀悟

四街道市立みそら小学校

實方 敬子

四街道市立旭中学校

佐藤 麻里奈

1. 主題設定の理由

第5部会（四街道市）特別支援教育研究部では、毎年6月、10月、1月の年3回小中学校特別支援学級合同学習会（以下、合同学習会）を企画・運営してきた。

6月には、児童生徒の交流を目的に船橋アンデルセン公園や葛西臨海水族園などの近隣施設での校外学習を実施してきた。中学生をリーダーとした縦割りグループを5つの中学校区ごと（四街道中学校区・千代田中学校区・旭中学校区・四街道西中学校区・四街道北中学校区）に編成して、体験や見学などの活動を行っていた。

10月には、四街道市教育委員会、特別支援学級設置校校長会、研究部の共催で「青い麦の子振興ふれあい運動会」を実施してきた。休憩時間には各校の児童生徒が作成した作品の頒布会も行い、各校の学習成果を見る機会となっていた。

1月には、小学6年生と中学3年生の「卒業を祝う会」を実施してきた。卒業にあたり、卒業生が自分の気持ちを発表し、在校生はお祝いの気持ちを表現できる良い機会であった。

しかし、令和元年度末より、新型コロナウイルス感染症の影響で、他校との交流を行う合同学習会は実施が困難となり、児童生徒が他校の友達や中学校の様子などを知る機会の減少に繋がってしまった。「見通しをもたせることが大切」とされる特別支援教育にとって、相手や状況が見えにくくなることは、中学校進学や今後の交流活動への不安につながってしまうのではないかと考えた。また、本市においても経験の少ない特別支援学級担任や他市から異動してきた担任が増えている中、教職員同士も顔を合わせる研修がなくなってしまったことで、教職員間の情報の共有や相談の機会も減ってしまった。

四街道市では、平成29年3月に「四街道市小中一貫教育基本方針」を策定し、小中一貫教育を推進している。各中学校区単位でそれぞれの特色を生かしながら、共通した児童生徒像「15歳の姿」を設定して教育活動を行っており、それぞれの中学校区内の学校の結びつきが強い。そこで、令和3年度から中学校区ごとに合同学習会の代替行事を検討してきた。

今回実践を行った旭中学校区は、市内の中学校区の中で最も学校数が多く、旭中学校・旭小学校・山梨小学校・みそら小学校・吉岡小学校の5校からなる。また、旭中学校は4校の小学校から入学すること、小学校4校のうち3校が小規模校であり、その学校に在籍する児童たちは限られたコミュニティの中で生活していることから、小学校のうちに4校の連携を図り、子どもたちが顔見知りになることで、中学校入学後の生活がスムーズにスタートできるのではないかと考えた。しかし、学校数が多く、集まるのが難しい上に、市域最南端にある吉岡小学校区から旭中学校への通学は6kmを超え、自転車通学やバス通学をしている生徒も多く、コロナ禍という状況を取り除いても、5校が対面で交流することは容易ではない。そのため、GIGAスクール構想に基づき整備されたタブレット端末を活用した交流方法を検討してきた。

オンラインで他校の児童生徒と交流することで、対面の時と同じように互いを知ったり、交流を楽しんだりすることができるのではないかと考えた。また、小規模校に在籍する児童が他校の児童生徒と交流することで、新たな発見や自分と異なる考えに触れることができ、知識や考えの幅が広がることも期待できる。さらに、教職員同士も交流に向けて連携して準備を進めていくことで、横のつながりが強化され、中学校入学や個々の支援をスムーズに進めることができるようになるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

2. 研究仮説

仮説 1

段階を追ってオンライン交流を設定することにより、児童生徒は互いを知り、関わりの場を楽しむことができるであろう。

「段階を追う」とは、本実践では、①旭中学校区内の活動を短時間で行えるものから徐々に進めていくこと、②児童生徒の関わる対象を校内の児童生徒から校外の児童生徒へと徐々に広げていくこと、の両方を指す。オンラインであれば自校で参加することができるため、コロナ禍においても対面で感じる感染症不安を軽減して交流が可能になる。また、特別支援学級には初めて会う相手や慣れない活動に不安を感じる児童生徒もいる。段階を追ってオンライン交流を設定することで、児童生徒が不安に思うことなくオンライン交流に参加することができるのではないかと考えた。

また、教職員もオンライン交流を重ねるたびにタブレット端末の操作やオンライン交流での活動に慣れ、スムーズな交流ができるようになるだろう。

オンライン交流により、映像で相手の姿を確認することができるため、対面での合同学習会の時と同様に、互いの顔を知ったり言葉を交わしたりすることの楽しさを感じたりできるのではないかと考える。さらに、中学校とも繰り返し交流を行うことで、児童が中学校生活へのイメージをもちやすくなるのではないかと考える。

仮説 2

交流に向けて5校の教職員同士が連携することにより、合同での活動時の個々の支援や中学校入学をスムーズに進めることができるであろう。

旭中学校区の特別支援学級に関わる教職員は、ここ数年で入れ替わり経験が少なかったり、他市から異動してきたりしている教職員が多くなった。教職員同士の繋がりを強くすることは児童生徒の指導をより良いものにするために重要であると考え。「教職員」とは、担任だけでなく、特別支援教育支援員や四街道市から派遣されている ICT 支援員などの児童生徒の教育活動に関わる全ての人を指す。「教職員同士が連携する」とは、本実践では教職員同士が1つの活動を行う上で、連絡を取り合ったり、情報を交換したりすることで、目的意識や情報を共有し合うことを指す。交流に向けて連絡を取り合ったり、指導にあたって不安なことを相談したりすることで、旭中学校区の教職員同士の繋がりが強くなり、指導力の向上につながると思う。コロナ禍のため、教職員同士が直接会うことも難しい状況がある。そのため、教職員の連携についても、仮説1のようにオンラインを活用しながら進めていきたいと考えている。

対面やオンラインなどを活用して、交流に向けて児童生徒についての実態や支援方法を共有することで、中学入学に向けた支援につながっていくのではないかと考える。

3. 研究内容の概要

(◎：合同学習会として市内全体で実施、◇：旭中学校区の交流として実施)

R3 年度	児童・生徒の活動	教職員の活動 (☆:オンラインで実施)	仮説との関わり
4 月		<ul style="list-style-type: none"> ・市内研究部員顔合わせ ・部会行事の検討、打ち合わせ ⇒<u>中学校区での実施になる</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・より早い段階で教職員同士が会うことで、情報交換や相談ができる関係を作る。 <p>(仮説2)</p>
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回合同学習会の内容を知る ・名刺作成(名前、好きなもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回合同学習会の代替行事「名刺交換会」の打ち合わせ ・連絡先の交換 ・名刺作成準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・「名刺交換会」に向け各校で名刺を作成する。(仮説1) ・旭中学校区の教職員が集まり、児童生徒の実態や各校の状況を考えながら代替行事を検討する。(仮説2)
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ◎名刺交換(連絡便・届けに行く)⇒実践① ・他校から届いた名刺を見る ・小学6年生中学校特別支援学級体験入級 	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺交換準備 ・「名刺交換会」反省 ・小学6年生特別支援学級体験入級のための調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・旭中学校区の仲間の名前を知る。(仮説1) ・旭中学校区の児童生徒の状況を知る。(仮説2)
7 月		<ul style="list-style-type: none"> ・第2回合同学習会(青い麦の子振興ふれあい運動会代替行事)打ち合わせ ⇒<u>学校紹介動画の作成(交流)、学校紹介資料作成(市HP掲載)</u> ☆旭中学校区オンライン会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した「オンライン交流」に向けた準備として、四街道市で活用している「Microsoft Teams」(以下、Teams)内に、特別支援担当者のみ入れる「旭中学校区」のグループを作成する。(仮説1)(仮説2) ・Teamsでオンライン会議を行い、操作の確認をする。(仮説2)
8 月		<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介資料作成 ☆タブレット端末を活用した動画編集の研修(特別支援教育研修会) ・旭中学校区打ち合わせ 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した動画撮影や編集の操作方法を知る。(仮説1) ・打ち合わせを通して配慮の必要な児童生徒の共通理解を進め計画を練る。(仮説2)

R3 年度	児童・生徒の活動	教職員の活動（☆:オンラインで実施）	仮説との関わり
9 月	◎第2回合同学習会「学校紹介動画」の撮影 ⇒ 実践② ◎市民文化祭作品の制作	☆オンライン授業に係る同意書を保護者からとり、オンライン授業の試行をする ・学校紹介資料の作成⇒保護者に承諾をとる ・動画撮影について保護者に承諾をとる ・学校紹介動画の作成、編集	・ICT支援員と打ち合わせをしながら、学校紹介動画を作成する。 (仮説1)
10 月	▼ ◎第2回合同学習会「学校紹介動画」の視聴 ・小学6年生中学校特別支援学級体験入級	・動画視聴の準備 ・動画視聴 ・小学6年生中学校特別支援学級体験入級のための調整	・ICT支援員に相談をしながら、学校紹介動画視聴の準備をする。 (仮説1) ・小学校や中学校の動画を見合うことで、お互いの様子を知る。 (仮説1) ・学校紹介動画を通して、児童生徒の理解を深める。 (仮説2)
11 月		☆中学校体験入級に向けた打ち合わせ	・小学6年生の中学校体験入級に向けて、電話やTeamsで連絡を取り合う。 (仮説2)
12 月	▼ ◇リモートじゃんけん練習会（旭小と山梨小） ◇リモートじゃんけん大会⇒ 実践③	☆リモートじゃんけん大会に向けたオンライン打ち合わせ ・じゃんけん大会の準備 ・保護者に参加の承諾を取る ・じゃんけん大会の反省	・2校間で練習会を行い、実施方法の検討をする。(仮説1) ・オンラインでじゃんけん大会を行い、交流を深める。 (仮説1)
1 月	◎第3回合同学習会「卒業を祝う会」に向けた動画作成⇒ 実践④ ・卒業生にプレゼントを作る	・「卒業を祝う会」の参加承諾をとる ・動画撮影、作成 ・中学校区ごとにプレゼントを作成し、届ける	・互いに卒業を祝う気持ちを育てる。 (仮説1) ・ICT支援員に相談をしながら動画を作成する。(仮説1) ・卒業生の情報を共有しながらプレゼントを作成し、届ける。 (仮説2)
2 月	◇オンライン頒布会 ⇒ 実践⑤ ・CM作成 ・注文用紙作成	☆オンライン頒布会の準備 ・オンライン頒布会を保護者に知らせる ・小学6年生について中学校入学に向けての「サポートシート」の作成	・それぞれの学校の取り組みを知ったり、中学校での学習の見通しをもったりする。 (仮説1) ・小学6年生の情報を互いに共有するとともに、中学校入学への準備を進める。 (仮説2)
3 月		・旭中学校区卒業生情報交換会 ・R3の活動の反省	・小学6年生の情報を共有する。 (仮説2)

R4 年度	児童・生徒の活動	教職員の活動 (☆:オンラインで実施)	仮説との関わり
4 月	・今年度の合同学習会の内容についてオンラインで確認する。	・市内研究部員顔合わせ ・連絡先の交換 ・部会行事の検討、打ち合わせ ☆旭中学校区オンライン確認	・オンラインでつながり、合同学習会の確認を行うことで、中学校区を意識できるようにする。(仮説1) ・より早い段階で教職員同士が会うことで、情報交換や相談ができる関係を作る。(仮説2)
5 月	・オンライン交流会の準備、練習 ↓	・第1回合同学習会が中学校区ごと開催に決定 ・代替行事の打ち合わせ⇒「 <u>オンライン交流会</u> 」 ・学校紹介やクイズの準備	・「オンライン交流会」に向けて、各校で準備をする。(仮説1) ・旭中学校区の教職員が集まり、児童生徒の実態や各校の状況を考えながら代替行事を検討する。(仮説2)
6 月	◇第1回合同学習会「オンライン交流会」 ⇒ 実践⑥ ・小学6年生中学校特別支援学級体験入級 ↓	・交流会の進め方の確認 ・学校紹介やクイズの準備 ・使用する機器(タブレット端末・カメラ・TV)の確認、準備 ☆オンライン交流会の反省 ・小学6年生中学校特別支援学級体験入級のための調整	・オンライン交流会を通して、旭中学校区の学校や仲間を知る。(仮説1) ・旭中学校区の児童生徒の状況を知る。(仮説2)
7 月	↓	☆小学6年生中学校特別支援学級体験入級のための打ち合わせ	・小学6年生の中学校体験入級に向けて、電話や Teams で連絡を取り合う。(仮説2)

5. 実践内容

実践① 第1回合同学習会代替行事「名刺交換会」(吉岡小学校)

【生活単元学習 1時間扱い】

期間 令和3年5月下旬から ※密を避けるため数名ずつ実施	
場所 (知的) ひまわり学級、(自情) なのはな学級	
活動内容	教師の支援
<p>○第1回合同学習会を中学校区ごとに行うことを知る。</p> <p>○「旭中学校区」の学校名を確認する。</p>	<p>・知っている学校名を挙げるよう促す。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「名刺」をつくろう</div>	
<p>○「名刺」を使う場面を考える。</p> <p>○「名刺」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前を書く。 ・(自分を紹介する)好きなことを書く。 ・絵を描く。 <p>○できあがった名刺を見合う。</p>	<p>・「名刺」の写真を見せながら、相手に自分のことを伝えるための道具であることを確認する。⇒旭中学校区の友達に伝える。</p> <p>・「相手に伝わるように丁寧に」を繰り返し伝える。</p> <p>・絵を描く時などに、タブレット端末を活用してもよいことを伝える。</p> <p>〈タブレット端末を活用して描いた絵〉</p>

成果

- 「好きなものが同じ人はいるかな？」や「1年生にもわかるように漢字にふりがなを書こうかな。」などの発言が聞かれ、渡す相手を意識して名刺づくりを行うことができた。
- 学校ごとの活動だったため、コロナウイルス感染症対策として少人数ずつ複数回に分けて進めることができた。
- 届いた名刺を見て、旭中学校区にはたくさんの仲間がいることを知ることができた。「四街道全部が集まったらすごい人数になりそう。」と次の合同学習会を期待する児童もいた。

課題

- 名刺を見て喜びつつも、「顔を見たい」という感想が多かった。
- イメージするのが苦手な児童にとっては、絵や文字だけでは相手を想像して楽しむことが難しかった。

実践② 第2回合同学習会代替行事「学校紹介動画作成と視聴」（みそら小学校）

〈動画撮影〉

【生活単元学習 4時間扱い】

期間	令和3年10月18日（月）～10月21日（木）	
場所	（知的）ハミング学級	
時間	活動内容	教師の支援
1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・動画撮影の説明 ・動画テーマについて、どのような動画にするか話し合う。 ・運動会で発表したダンスを行うことに決まった。 	※動画撮影にあたって保護者の承諾を得るようにした。 ・より良いものになるよう、撮った動画を確認しながら進める。
2時間	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスの練習 	
3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・動画撮影 ・動画を確認する。 	
4時間	<ul style="list-style-type: none"> ・動画撮影（編集は担任） 	



〈動画視聴〉

【生活単元学習 3時間扱い】

期間	令和3年10月27日（水）～11月2日（火） 各学校で時間を設定して視聴	
場所	（知的）ハミング学級	
時間	活動内容	
9:25	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の予定について（動画視聴、感想発表） ※動画視聴の順番 	
～	10/27	①旭小学校 ②山梨小学校 ③吉岡小学校 ④旭中学校 ⑤みそら小学校 ⑥八木原小学校
	10/28	⑦南小学校 ⑧中央小学校 ⑨栗山小学校 ⑩大日小学校 ⑪四街道小学校 ⑫和良比小学校
10:05	11/2	⑬四和小学校 ⑭四街道北中学校 ⑮四街道西中学校 ⑯四街道中学校 ⑰千代田中学校

※動画は、Teams内にアップし、特別支援学級担任のタブレット端末でのみ視聴できるようにした。


成果

- 配信期間が長かったので、市内全小中学校の動画を視聴することができた。
- 動画を作成したことで、学習成果を市内小中学校の仲間に見てもらえる機会となった。
- 知っている友だちの姿を見て、「〇〇ちゃん」と嬉しそうに呼んでいた。
- 発表に向けて、みんなで同じ目標に向かって練習に取り組むことで一体感が生まれた。
- 自分が納得いかない際は「もう一度やりたい」と言って撮り直したり、撮ったものを自分で確認できたりするので、児童の良いところを見てもらうことができた。

課題

- 初めての試みで、どのような内容のものを撮影したら良いかよく分からず、最初にアップした学校の動画を見てから内容を決めることになり、話合いの時間の確保が難しかった。
- 保護者に声をかけたが、動画撮影について承諾を得られない家庭があり、参加してもらえなかった。
- 動画への顔出し承諾を得られない児童は、顔が映らないように遠くからの撮影になり小さくなってしまった。
- 児童は動画撮影に参加を希望していたが、保護者の承諾が得られなかったというケースがあったため、保護者向け文書の内容に工夫が必要だと感じた。
- 動画の配信や編集の仕方がよく分からず、ICT支援員に頼ってしまうことが多かった。

実践③ 「リモート交流会（じゃんけん大会）」（旭小学校）【生活単元学習 1時間扱い】

日時	令和3年12月20日（月） 10:30～11:15	
場所	（知的）おひさま1組	
時間	活動内容	教師の支援
10:30～	・司会者あいさつ ・本時の内容確認	
10:35～	① 自己紹介 （学年・氏名・一言） （ア）旭小 （イ）山梨小 （ウ）みそら小 （エ）吉岡小 （オ）旭中	・カメラの位置が分かるように印をつけてわかりやすくした。
10:45～	② ジャンケン大会 （3回戦） ・何を出すか話し合う。 ↓ ・誰を出すか話し合う。 ↓ ・決まった人がパソコンの前に立つ。 ↓ ・勝負をする。	・ゲー、チョキ、パーが見えるように札を使って行う。
11:10～	・感想発表 各校1・2名	
11:15	・あいさつ	

成果

- 今回の5校でのじゃんけん大会の前に、旭小学校と山梨小学校の2校で練習をしていたので、スムーズにじゃんけんを行うことができた。
- 一度に5校の児童生徒と交流することができて、「またやりたい」と次への期待感が高まった。
- みんなが知っている遊びだったので、全員が楽しみながら参加することができた。
- ゲー・チョキ・パーの札を使ったことで、リモートでも見やすくじゃんけんを行うことができた。
- 児童全員で話し合う場を設けたことで、意欲的に参加することができた。

課題

- 5校の交流になると、札を出すときに少し時差が出てしまった。
- 動画への顔出し承諾を得られない児童がいた。承諾を得られなかった児童については、視聴のみ行った。


実践④ 第3回合同学習会代替行事 「卒業を祝う会」(山梨小学校)

【生活単元学習 11時間扱い】

〈事前準備〉

期間：令和4年1月11日（火）～1月19日（水） 場所：校内各所		
時間	活動内容	教師の支援
1時間	・動画撮影の説明	・児童が思い出を想起できるよう出来事を話しながら進める。 ・児童から意見が出ない場合は、教師側から意見を出せるよう声かけをする。
1時間	・動画テーマについての話合い (在校生と卒業生で分かれて話し合う) ・「感謝」「ありがとう」をテーマに、どのような動画にするか在校生と卒業生に分かれて話し合う。	
3時間	・言葉を考えたり、練習したりする。	・より良いものになるよう、撮った動画を確認しながら進める。
2時間	・動画撮影（編集は担任）	
4時間	・卒業を祝う会当日のプログラムや役割分担について話し合い、準備を進める	

〈祝う会当日〉

日時：令和4年1月26日（水） 9:30～11:05 場所：(知的) ひまわり1組		
時間	活動内容	教師の支援
9:30～	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者着席 ・卒業生入場 ・始めの言葉 ・動画視聴①旭小学校 <li style="padding-left: 20px;">②みそら小学校 <li style="padding-left: 20px;">③吉岡小学校 <li style="padding-left: 20px;">④旭中学校 <li style="padding-left: 20px;">⑤山梨小学校（自校） ・感想発表 ・お祝いの言葉 ・プレゼント贈呈 ・卒業生の言葉 ・歌「ありがとうの花」 ・終わりの言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表の児童が安心して進められるよう言葉かけ等の支援をする。
11:05	・卒業生退場（みんなでアーチを作って送る）	

成果

- 多くの人が見ている前での司会やせりふを言う経験が少なかったため良い機会となった。
- 動画を作成したことで、学習成果を保護者や中学校区の仲間にもてもらえる機会となった。
- 卒業生も在校生も卒業にあたって、抱えていた思いを表現できる機会となった。
- 発表や気持ちを表現することが不得意な児童でも、自信をもって取り組むことができた。
- 自分が納得いかない際は撮り直しができたり、撮ったものを自分で確認できたりするので、その場での発表より堂々と発表することができた。
- 市内で統一して、卒業生の保護者のみ参観可となった。例年どおりの卒業を祝う会ではなかったが、前年度は行えなかったことができて、保護者にも喜んでいただくことができた。

課題

- 卒業生の保護者のみ参観可能となっていたが、在校生の保護者からも参加したかったという声があった。
- 動画の内容を決めるときに、児童にはイメージすることが難しく、話合いは難しかった。児童がこのような経験を重ねれば、今後いろいろな案が出てくるかもしれないので、毎年恒例とし、継続していける活動になるとよいと思われる。
- 本校は全員参加することができたが、一人でも顔出しができない児童がいた場合は、動画の内容に工夫が必要だと感じた。

〈製作・製品紹介動画製作〉

期間 令和3年9月～令和4年3月	
場所 (知的) つばさ学級、(自情) あおば学級	
活動内容	教師の支援
<p>○製作を行う。 〈しおりの製作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使用して柄を検索したり、デザインを描いたりする。 ・作業分担をして、しおりを作成する。 <p>①しおりの大きさに紙を切る。 ②切り絵をする。紙に切り込みを入れる。 ③切り絵の背景の折り紙を決める ④貼り付ける ⑤ラミネートし、穴を開けてリボンを通す。 ⑥1つずつ包装する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>〈布を用いた製品の製作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生が使えるものを考え、タブレット端末で検索する。 ・決まった製品(ポケットティッシュカバー)の作り方を確認し、作業を行う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>〈製品紹介動画作成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品を紹介するにあたり、動画で紹介する人、撮影する人、商品を動かす人、動画を編集する人に分担をする。 ・商品を紹介する文を考えたり、画角を調整したりする。 ・小学生に分かりやすいように、動画に字幕を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旭中学校区で頒布会を行うことを生徒に伝え、小学生が喜ぶような製品を考えさせる。 ・カッターを扱うため、安全面には十分注意をする。 ・細かい作業が苦手な生徒には、直線上を切るだけでできる製品等を準備したり、貼り付けたりする作業を分担する等配慮する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・作り方を師範する。 ・ハサミやミシンの扱いに十分注意をさせる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生に頒布するため、商品紹介の動画を撮影することを伝える。

〈頒布会〉

期間 令和4年2月～3月	
活動内容	教師の支援
・ 製品紹介動画を Teams にあげる。 ・ 生徒が購入希望品を包装し、学校ごとにまとめる。	・ 各学校で製品紹介動画を視聴するよう製品紹介のチラシを作成し、配付する。 ・ 教員が包装した製品を各学校に届ける。

※各学校で、チラシを児童・保護者に見せ、購入希望をとる。

成果

- 小学生が欲しいと思うか、何だったら喜んで使うかを考え、生徒同士で話し合いながら製作に取り組む姿が見られた。
- 自分がデザインした製品が購入され、喜んでいる生徒がおり、作業を自信につなげられる機会となった。
- 販売する製品を意識することで、自分にできる作業、向かない作業を認識し、割り当てられた分担に集中して取り組むことができた。

課題

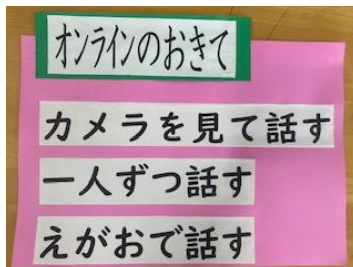
- 販売の体験をすることができず、お金の学習にはつなげることができなかった。製品が多数余れば、自校の教員への頒布を行うこともできたと考える。
- 小学生の反応を実際に見ることができなかったため、自分たちが製作した製品がどう思われたか等、生徒が体験する場とできなかった。
- 製作数が少ない製品の購入希望が多くなってしまったため、購入品を変えてもらったり、追加で製作を行ったりした。生徒に工夫させたことにより製作意欲を持って取り組んでいたが、全く同じ製品の製作ではなくなったため、柄やデザイン等の購入希望を細かくとることはできなかった。

実践⑥ 第1回合同学習会代替行事 「オンライン交流会をしよう」(吉岡小学校)

【生活単元学習 8時間扱い】

〈事前準備〉

期間	令和4年5月～6月	
場所	(知的) ひまわり学級、(自情) なのはな学級	
時間	活動内容	教師の支援
1時間	<p>○第1回合同学習会として旭中学校区で「オンライン交流会」を行うことを伝える。</p> <p>○「オンライン交流」を行うときに気をつけることを確認する。</p>	<p>・ICT支援員による説明をよく聞くよう声をかける。</p> <p>・本番と同様に行うため、ひまわり学級となのはな学級に分かれてオンラインでつなぎ、練習する。</p>
2時間	○自己紹介の練習をする。	
2時間	○クイズの問題を考え、練習する。	
2時間	○本番に向けてリハーサルを行う。	



〈当日〉

日時	令和4年6月21日(火) 9:20～10:10	
場所	各学校・教室	
時間	活動内容	教師の支援
9:15	○Teams「旭中学校区」の指定の会議室へ入室	<p>・教師用タブレット端末で接続する。</p> <p>・司会は、吉岡小の教員が行う。</p>
9:25	<p>○出席確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会が「〇〇学校さん。」と学校名を呼ぶ。 ・聞こえたら手を振る。 	
9:30	<p>○はじめのあいさつをする</p> <p>○交流会の流れの確認をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校名・自己紹介 ②学校紹介クイズ ③感想 <p>※すべて、吉岡小→旭小→みそら小→山梨小→旭中の順に行う。</p>	<p>・メインで話す学校のみ「マイクをON」にする。</p> <p>・司会が流れを説明し、学校ごとに進めていく。</p>

9:35	○学校名・自己紹介をする。 司会「吉岡小から始めます。」 (学校ごとに) 「〇〇学校です。〇人います。」 「〇年 (名前) です。」 : 「〇年 (名前) です。よろしくお願いします。次は〇〇 学校さん、どうぞ。」	・一人ずつ自己紹介を する。
9:50	○学校紹介クイズをする。 司会「つぎは学校紹介クイズです。」 (学校ごとに) 「(クイズが終わったら) 次は〇〇学校さんどうぞ。」 ○感想を発表する。	・学校ごとに準備した クイズを行う。(〇× クイズ・3択クイズ)
10:00	○終わりのあいさつ。 司会「これで 第1回合同学習会 旭中学区オンライン交流 会を終わります。また会いましょう。退出をしてくだ さい。」	
10:10	○退出する。	

成果

- 学校の実態に合わせて、写真や動画を使用したクイズを準備することができた。
- 旭中学校区の5校がつながり画面上にそろったときには、手を大きく振ったり、拍手をした
りなど喜ぶ姿が見られた。
- 「またやりたい。」「クイズが楽しかった。」「もっとクイズをしたい。」と次への期待感が高ま
った。

課題

- 緊張のため、「ゆっくり」「大きな声で」が難しい児童もいた。事前に動画を撮っておくこと
で安心につなげることもできたと感じている。
- 機器やネットワークのトラブルなど、オンラインならではの難しさがあった。

6. 考察

仮説 1

段階を追ってオンライン交流を設定することにより、児童生徒は互いを知り、関わりの場を楽しむことができるであろう。

〈成果〉

- 長期的な計画の下、名刺交換会→動画視聴→じゃんけん大会→オンライン交流会…と段階を追って実践したことで、児童生徒たちはオンライン交流の方法に慣れ、関わりを楽しむことができた。また、初めて会う相手や慣れない活動に不安を感じる児童生徒も安心して参加することができた。
- 教職員もタブレット端末の活用に慣れ、児童生徒が楽しめる交流内容を考えることができた。
- タブレット端末を活用することで、コロナ禍でも相手の顔を見たり声を聞いたりしての交流を楽しみながら活動することができた。また、画面に映った相手を見て、他者を意識しながら自己表現をすることができた。
- 互いを知るだけでなく、自分の好きなもの、好きなこと、得意なことなどの自己理解にもつながった。

〈課題〉

- オンライン交流だけでは、相手の名前を覚えて親しくなることが難しい。
- 学校間で時程が異なるため、活動時間帯を合わせるものが難しかった。
- 個人情報保護の観点から、保護者の承諾を得ることが難しいこともあった。それぞれの学校でオンライン授業も行っているため、年度初めに承諾が得られればスムーズに活動を行えるのではないかと考える。

仮説 2

交流に向けて5校の教職員同士が連携することにより、合同での活動時の個々の支援や中学校入学をスムーズに進めることができるであろう。

〈成果〉

- 交流会に向けて頻繁に連絡を取り合ったことで、教職員のつながりが強くなり、中学校や他の小学校の様子を知るだけでなく、日頃の悩み等も相談することができた。
- 新型コロナウイルス感染症の感染状況が悪化している時期でも、オンラインを活用することで連絡を取り合うことができた。
- 対面での合同学習の場が無かったが、オンライン交流を通して、様子を把握したり、担任同士が情報を共有したりすることで、中学校入学に向けた個々の支援につなげることができた。

〈課題〉

- 教職員の異動等で担当者が入れ替わることもあるため、年度をまたいだ連携や中学校入学後の支援に難しさがある。

7. まとめ

新型コロナウイルス感染症の影響により合同学習会をこれまでどおり実施できなくなったことで、児童生徒が校外の施設で体験活動をする機会や他校の児童生徒や教職員など、さまざまな人と交流する機会が少なくなり、児童生徒が楽しみにしている活動が減り、学習の幅が狭くなってしまったと感じていた。しかし、今回、タブレット端末を活用してオンライン交流を進めていくことで、相手の顔を見たり声を聞いたりしての交流を楽しむことができた。オンライン交流によって、経験の場を補うことができたのではないかと考える。

また、教職員にとっても、交流会に向けてオンラインを活用して頻繁に連絡を取り合ったことでつながりが強くなり、日頃の悩み等も相談することができた。教職員同士の連携をさらに強化していくことで、今後、中学校入学に向けた支援の充実へつなげることを目指していきたい。